

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 19 年 3 月 29 日 (2007.3.29)

【公表番号】特表 2006-516655(P2006-516655A)

【公表日】平成 18 年 7 月 6 日 (2006.7.6)

【年通号数】公開・登録公報 2006-026

【出願番号】特願 2006-503409(P2006-503409)

【国際特許分類】

A 6 1 K 39/395 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/537 (2006.01)

A 6 1 K 31/7034 (2006.01)

A 6 1 K 35/74 (2006.01)

A 6 1 K 35/54 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 39/395 D

A 6 1 K 39/395 N

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 39/395 L

A 6 1 K 31/537

A 6 1 K 31/7034

A 6 1 K 35/74 Z

A 6 1 K 35/54

A 6 1 P 35/00

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 2 月 5 日 (2007.2.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

(a) 配列番号 5 のポリペプチド；

(b) 配列番号 5 のポリペプチドであって、その関連シグナルペプチドを欠くもの；又は

(c) 配列番号 2 のヌクレオチド配列によってコードされるポリペプチド
 に対して少なくとも 95% のアミノ酸配列同一性を有するタンパク質を発現する細胞の成長を抑制する方法であって、前記細胞に対し、前記タンパク質に結合する抗体を接触させることを含み、前記タンパク質への前記抗体の結合によって前記細胞の成長を抑制する方法。

【請求項 2】

前記抗体がモノクローナル抗体である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記抗体が抗体断片である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 4】

前記抗体がキメラ、ヒト化、又はヒト抗体である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 5】

前記抗体が成長抑制剤と結合した、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 6】

前記抗体が細胞障害性剤に抱合した、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 7】

前記細胞障害性剤が、毒素、抗生物質、放射性同位元素又は核溶解性酵素である、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 8】

細胞障害性剤が毒素である、請求項 7 に記載の方法。

【請求項 9】

毒素が、メイタンシノイド又はカリケアマイシンである、請求項 8 に記載の方法。

【請求項 10】

毒素がメイタンシノイドである、請求項 9 に記載の方法。

【請求項 11】

前記抗体が細菌中において生成される、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 12】

前記抗体が C H O 細胞中において生成される、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 13】

前記細胞が癌細胞である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 14】

前記癌細胞をさらに放射線治療又は化学療法剤に曝す、請求項 13 に記載の方法。

【請求項 15】

前記癌細胞が、乳癌細胞、結腸直腸癌細胞、肺癌細胞、又は卵巣癌細胞である、請求項 13 に記載の方法。

【請求項 16】

前記タンパク質が、同じ組織由来の正常細胞と比較して癌細胞によってより豊富に発現される、請求項 13 に記載の方法。

【請求項 17】

前記抗体が細胞死を引き起こす請求項 1 に記載の方法。

【請求項 18】

タンパク質が、

(a) 配列番号 5 のアミノ酸配列；

(b) 配列番号 5 のアミノ酸配列であって、その関連シグナルペプチド配列を欠くもの；又は

(c) 配列番号 2 のヌクレオチド配列によってコードされるアミノ酸配列を含んでなる、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 19】

前記タンパク質がシスタチン活性を有する、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 20】

(a) 配列番号 4 のポリペプチド；

(b) 配列番号 4 のポリペプチドであって、その関連シグナルペプチドを欠くもの；又は

(c) 配列番号 1 のヌクレオチド配列によってコードされるポリペプチドに対して少なくとも 95 % のアミノ酸配列同一性を有するタンパク質を発現する細胞の成長を抑制する方法であって、前記細胞に対し、前記タンパク質に結合する抗体を接触させることを含み、前記タンパク質への前記抗体の結合によって前記細胞の成長を抑制する方法。

【請求項 21】

前記抗体がモノクローナル抗体である、請求項 20 に記載の方法。

【請求項 22】

前記抗体が抗体断片である、請求項 20 に記載の方法。

【請求項 23】

前記抗体がキメラ、ヒト化、又はヒト抗体である、請求項 20 に記載の方法。

【請求項 24】

前記抗体が成長抑制剤と結合した、請求項 20 に記載の方法。

【請求項 25】

前記抗体が細胞障害性剤に抱合した、請求項 20 に記載の方法。

【請求項 26】

前記細胞障害性剤が、毒素、抗生物質、放射性同位元素又は核溶解性酵素である、請求項 25 に記載の方法。

【請求項 27】

細胞障害性剤が毒素である、請求項 26 に記載の方法。

【請求項 28】

毒素が、メイタンシノイド又はカリケアマイシンである、請求項 27 に記載の方法。

【請求項 29】

毒素がメイタンシノイドである、請求項 28 に記載の方法。

【請求項 30】

前記抗体が細菌中において生成される、請求項 20 に記載の方法。

【請求項 31】

前記抗体がCHO細胞中において生成される、請求項 20 に記載の方法。

【請求項 32】

前記細胞が癌細胞である、請求項 20 に記載の方法。

【請求項 33】

前記癌細胞をさらに放射線治療又は化学療法剤に曝す、請求項 32 に記載の方法。

【請求項 34】

前記癌細胞が、乳癌細胞、結腸直腸癌細胞、肺癌細胞、膀胱癌細胞、又は卵巢癌細胞である、請求項 32 に記載の方法。

【請求項 35】

前記タンパク質が、同じ組織由来の正常細胞と比較して癌細胞によってより豊富に発現される、請求項 32 に記載の方法。

【請求項 36】

前記抗体が細胞死を引き起こす請求項 20 に記載の方法。

【請求項 37】

タンパク質が、

(a) 配列番号 4 のアミノ酸配列；

(b) 配列番号 4 のアミノ酸配列であって、その関連シグナルペプチド配列を欠くもの；又は

(c) 配列番号 1 のヌクレオチド配列によってコードされるアミノ酸配列を含んでなる、請求項 20 に記載の方法。

【請求項 38】

前記タンパク質がシスタチン活性を有する、請求項 20 に記載の方法。